



広島・長崎への原爆投下から78年！

今こそ歴史の教訓から学び、核兵器のない平和な社会の実現に向けて行動しよう！



多くの命が一瞬にして奪われた惨禍を決して忘れてはならない！

原子爆弾が広島と長崎に投下され78年が経過しました。世界で初めて使用された核兵器により街は一瞬で焦土と化し、広島では14万人、長崎では7万人の方がその年末までに命を落としました。

私たちは平和研修で戦争の歴史と教訓を学び、戦争政策に反対し、平和で安心して暮らせる社会を求めてきました。しかし、昨今のウクライナ侵攻等の情勢変化により核兵器の使用が現実味を帯び、「核共有」や「核抑止論」の主張が一部で高まり、私たちの生存が脅かされる一方、核廃絶の展望は見えません。

また、昨年政府は「安保関連三文書」を閣議決定し、「敵基地攻撃能力」や防衛費の増額等、大規模な軍備拡張を推し進めています。憲法9条では、「戦争放棄」や「戦力の不保持」、「交戦権の否認」が定められていますが、その平和主義の理念が大きく揺らいでいます。一たび戦争になれば戦時体制に組み込まれ、犠牲となるのは私たち市民や労働者であり、社会インフラを担う私たちは決して無関係ではられません。

私たちは今こそ憲法改悪を許さず、「核兵器のない平和な社会」を求めて行動しなければなりません。大宮地本主催の「『平和・人権・民主主義』を守り抜き、美世志会と共に平和な未来を創り出す8・26集会」に結集し、共にたたかいを創り出そう！

歴史の教訓から学び、憲法改悪と軍拡を許さず、平和で安心して暮らせる社会を守り抜くために、仲間と共にたたかおう！